

授業相互観察シート		授業者	教諭			
	観 察 項 目	当てはまる	だいたい 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはまらない	
1	授業の始めに、学習の準備について確認している。	4	3	2	1	
2	指示に従わない生徒に適切に対応している。	4	3	2	1	
3	全員の聞く姿勢を整え、静かになってから発問・指示を出している。	4	3	2	1	
4	分かりやすい言葉、はっきりした声で発問・指示をしている。	4	3	2	1	
5	目的にふさわしい発問・指示・指名をしている。	4	3	2	1	
6	机間指導中に、生徒一人一人の記述内容を確認している。	4	3	2	1	
7	生徒と積極的にアイコンタクトをとっている。	4	3	2	1	
8	授業中、なるべく多くの生徒に言葉かけを行っている。	4	3	2	1	
9	生徒一人一人の意見や活動のよい点を取り上げ、具体的に褒めている。	4	3	2	1	
10	完成した板書は読みやすく分かりやすい。	4	3	2	1	
11	生徒の集中を保ちながら授業を終了させている。	4	3	2	1	

※授業の観察時間によっては、記入できない項目があっても構いません。

◎自由記述欄

良 か っ た こ と	
気 に な っ た こ と	
質 問 ・ ア ド バ イ ス	

授業参観日	2 0 年 月 日（ ）				
参観クラス	年 組				
参観時間	校時	:	～	:	
担当教科					
記入者					

※この観察シートは、後程
行われる協議会で回覧いた
します。



利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。
www.bunka.go.jp/jiyuriyo

©2011上野和広
著作権は放棄しませんがコピーしてご自由にお使いください

若手教員の指導の時間がなくてお困りの皆様に

授業力up!!
月30分で
同僚性up!!

若手教員の授業力向上と学年教員の相互理解を目的とした
授業相互観察・書き込み回覧方式協議会の実施に向けて

若手教員は慣れない仕事に、研修等に忙しく、周囲の先生方も
山のような雑事に忙殺されています。
そんな中、若手教員の授業力向上のために
授業観察や協議会を行うことは物理的な面から困難でした。

しかし、若手教員の授業力向上という1つの目標のもと
今回開発した授業相互観察および書き込み回覧方式の協議会の
システムを導入することにより、

月30分という時間を確保するだけで

若手教員の授業力向上
教師の連携・相互理解
限られた時間の有効活用

という3つの課題を一気にクリアすることができ、
さらに

学年内における同僚性

を高めることに成功しました。

若手教員が増加している今、課題ばかりが叫ばれていますが、
このシステムによって若手教員がいることがメリットにもなり
ます。

東京学芸大学 教職大学院
教育学研究科 教育実践創成専攻
上 野 和 広
（所属校：八王子市立第一中学校）

○授業相互観察の実施

月1回、1週間程度の授業相互観察期間を設定し、同学年教員に若手教員の授業観察を実施してもらいます。限られた空き時間を有効活用し、多くの授業を観察してもらうため、観察時間を1時間単位とせず、流動的なものになっています。

また、他教科の視点から授業観察を行うことで、「私語の注意等の授業規律」「特別な配慮を要する生徒の対応」など、児童・生徒と関わりをもつ力が着実に身に着きます。

◎授業相互観察シートの活用方法

- (授業相互観察シートは4ページにあります)
- ①授業参観日時、参観クラス、参観時間、自身の担当教科、氏名を記入する。
 - ②授業観察を実施した時間に合わせて、1～11の質問項目に○をつける。
※授業の観察時間によっては、記入できない項目があっても構わない。
 - ③授業の中で良かったこと、気になったこと、質問・アドバイス等を自由記述欄に記入する。
※協議会を行う際のポイントになるので、自由記述欄に多くのコメントを記入するように心がける。

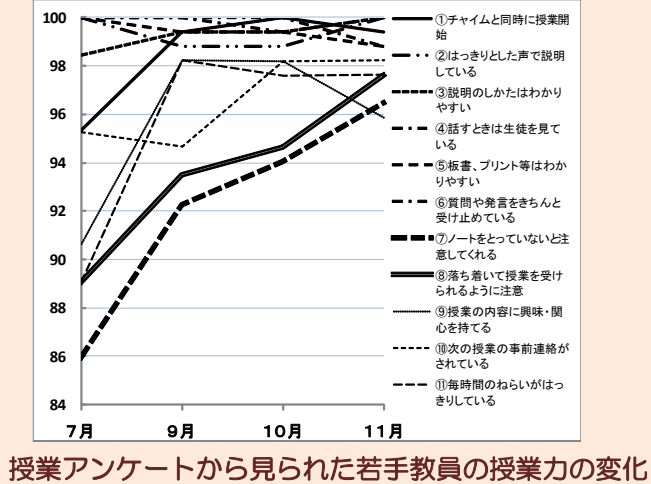
◎授業相互観察をするタイミング

- ・空き時間の10分間で・・・
- ・校内パトロールの途中に・・・
- ・教室の前を通りかかったときに・・・

◎授業相互観察シートに取り入れた工夫

- ・1～11の観察項目は流動的な授業観察に特化した質問に設定しており、どのタイミングで授業観察に参加しても、その場面ごとに適したチェックができるようになっている。
- ・どの時点で授業観察をしたのかを明確にするために参観時間を記入できるようにしている。
- ・授業案によらず、どの教科の授業においても共通して使用できるフォーマットになっている。

◎授業力が急速に向上

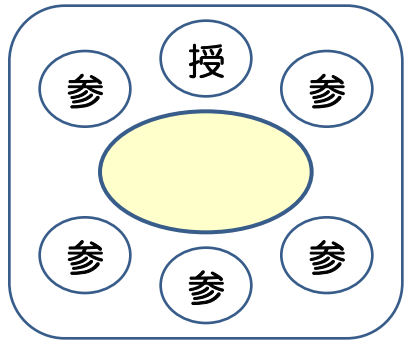


○書き込み回覧形式の協議会の実施

これまで授業観察後行われる協議会では、多くの時間を確保する必要があり、1人の若手教員に対して複数の中堅教員、ベテラン教員がそれぞれの視点から指導・助言をしていくことが多く見られていました。今回導入した書き込み回覧方式の協議会では、短時間で密度の濃いものとするために、各自の発言を省略化し、また、お互いの考えていることを理解できるような工夫をしました。

◎協議会の実施方法

- ①授業者と観察者が円（右図）のようにテーブルを囲み、各自が記入した「授業相互観察シート」を回覧する。
(1人あたり：2分～3分程度)
- ②他の観察者の「授業相互観察シート」が手元にきたら自由記述欄を確認し、自分自身が書き漏らしたことが記入されていたり、同じような考えのことが記入されていたら『me too』と赤ペンで記入する。
- ③授業者のところに「授業相互観察シート」がきたら、自由記述欄に記入されていることに対して質問があれば青ペンで記入する。
(質問欄に質問が記入されている場合は、返事を記入する)
- ④「授業相互観察シート」が1周して自分の手元に戻ったら、観察者は質問への返事を書いて授業者へ渡す。
(2分～3分程度)
- ⑤協議会を通して、授業者が学んだこと、気づいたこと、今後の課題等について意見を述べる。
※7、8人程度の参加人数であれば30分以内で実施可能



◎協議会に取り入れた工夫

- ・できるだけ気軽に参加してもらえるように各自の持ち物を授業相互観察シートのみとし、必要な筆記用具等は共通のものを準備する。
- ・一人あたりの書き込み回覧時間は2、3分程度とし、他の教員の自由記述欄の確認と自身の意見の追加記入だけとして、書くことにのみ専念してもらう。
- ・協議会を文章化することにより、多くの教員の意見に触れる機会を増やす。
- ・授業相互観察シートを学年教員内で回覧することにより、それぞれの教員（他教科）の授業観察のポイントを学年教員全員で共有する。
- ・協議会の終了時間を明確にすることで、参加意欲を高める。

◎同僚性の向上（協議会参加者の感想から）

- 学年の先生方との関わりについての変化
- ・授業に対していろいろな感じ方があることがわかり、各意見をまわして読むことによって、共通意識を持つことができ、親しみが増したように感じる。
 - ・他の先生方の意見を聞き、連帯感が生まれ、学年内での連携がスムーズになったように思う。
 - ・他の先生方が授業の中で何を大切にされているかが分かり、自分と同じ感じ方をしている方がいて、気持ちが近づいた。
 - ・学年全体で若手教員を育てようとする意識が生まれた。
- 意識や行動についての変化
- ・他の教科の授業を意識して短時間でも見るようになった。
 - ・自分自身の授業も振り返らねばならないという意識が芽生え、実際に振り返ることができた。
 - ・若手教員に対して授業以外の面も含め、アドバイスする機会が増えた。

◎授業相互観察の変容

※授業者を含め職員総数8名の学年の実施

	1人あたりの 平均観察時間	観 察 人 数
1回目	16.25分	5人
2回目	17.5分	6人
3回目	27.9分	7人

回を追うごとに、授業参観者および一人当たりの観察時間が増えた。